

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)
会場：奥武山水泳プール

ゲームNo. 1

帽子の色 白

長崎工業

5 $\left(\begin{array}{ccc} 3 & - & 1 \\ 1 & - & 2 \\ 0 & - & 4 \\ 1 & - & 5 \\ & & \text{PS} \end{array} \right)$ 12

帽子の色 青

鹿児島南

審判1: 福元 寿夫

審判2: 大坂 淳

戦評

令和初インターハイの開幕戦は優勝1回を含めて全国大会上位の常連の鹿児島南高校、6年ぶりの出場を果たした長崎工業高校のと九州代表同士の対戦となった。柏崎潮風カップ優勝の鹿児島南に対し、GK①佐々野君を中心としたディフェンスから長崎工業がペースを握れるかがゲームのポイントになります。

第1ピリオド

鹿児島南③長谷川君がセンターボールをとり試合開始。長崎工は退水誘発から6:38長崎工⑦本多君が先制点をあげた。長崎工業はゾーンディフェンスからの遅攻を展開。3:27長崎工④岡君がゴール前からの得点。2:11⑦本多君がミドルシュートで連続得点。1:48鹿児島南⑧江崎翔君がGKの顔横を射抜く得点をあげた。長崎工業のディフェンスを鹿児島南が崩せるか。(長崎工業3-1鹿児島南)

第2ピリオド

長崎工は1ピリオドに続き④岡君を中心とした遅攻を展開。鹿児島南は果敢にシュートを放つも長崎工GK①佐々野君のファインセーブが続く。1:56長崎工⑦本多君がこの試合3点目の得点。1:41鹿児島南⑥加治木君がゴール前でワンタッチシュートを放ち1点を返す。0:26鹿児島南⑤都田君がカウンターから更に1点を返し、4-3長崎工業リードで前半を終えた(長崎工業4-3鹿児島南)。

第3ピリオド

3ピリオド目も長崎工GK①佐々野君のセーブが冴えわたるが、6:42鹿児島南⑦荻原君が得点し、同点に追いつく。攻撃の中心であった長崎工④岡君が負傷退場し、長崎工にとっては手痛い展開に。6:01鹿児島南④田村君がゴール前から得点、5:27③長谷川君が右サイドからシュート、3:56⑦荻原君がミドルシュートで得点し、連続得点を重ねる。鹿児島南が2ピリオド以降6連続得点で逆転した(長崎工業4-7鹿児島南)。

第4ピリオド

序盤で得点をとりたい長崎工業であったが、鹿児島南のプレスディフェンスに攻め手を欠く展開が続く。長崎工業は組織的なゾーンディフェンスで懸命に守るが、鹿児島南は3:42⑥加治木君の左サイドからのシュート、3:09⑩内野君、1:49⑨江崎貴君、1:23⑫平手君、0:53⑧江崎翔君の連続得点で突き放した。長崎工も0:03⑦本多君がこの試合4回目の得点で1点を返すが、点差は大きく12対5で鹿児島南が開幕戦を制しました。(長崎工業5-12鹿児島南)

長崎工業はGK①佐々野君のファインセーブもあり、試合を通じて粘り強いディフェンスを展開した。エース④岡君の負傷退場もあったが、最後まで諦めることなく懸命に戦う姿は素晴らしかった。鹿児島南は序盤リードを許すも、慌てることなく落ち着いて試合を展開し、2ピリオドの加治木君の得点を皮切りに連続得点を重ねた姿は、王者の風格を漂わせた。鹿児島南の2回戦以降の活躍に期待したい。

記録者 砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

2

帽子の色 白

乙訓

9

3	-	1
1	-	4
2	-	7
3	-	0
PS		

12

帽子の色 青

福岡工業

審判1： 塩崎 正一

審判2： 黒崎 千智

戦評

南部九州総体2試合目はインターハイ初出場の乙訓高校対、全国大会常連校の福岡工業との対戦となった。選手10名少数精鋭で激戦区近畿地区を勝ちあがった乙訓高校と、過去インターハイ優勝4回準優勝3回の強豪福岡工業高校のどちらが試合の主導権をとるのか、楽しみな対戦です。

第1ピリオド

福岡工⑩神崎君がセンターボールをとり試合開始。6:27乙訓⑧谷口君が相手の裏をとり、先制点をあげる。福岡工もGK①部君が果敢な飛び出しからボールをカット等、乙訓の攻撃を跳ね返していくが、2:25乙訓⑤浦田君のミドルシュート、1:54④上出君がカウンターからGKの飛び出しを良く見てループシュートを決め、点差を広げていく。福岡工も⑤志原君がゴール前から鮮やかなバックシュートを決め第1ピリオドは3-1乙訓リードで終了した。(乙訓3-1福岡工業)

第2ピリオド

福岡工は7:05⑨勝木君がカウンターから得点、6:24②田中君がミドルシュートを決め同点に追いつく。乙訓は福岡工カウンター攻撃を防ぐため、ディフェンス重視の攻撃を展開していく。福岡工の攻撃時に①三田が退水誘発、リードしたい福岡工業はタイムアウトを要求。2:12②田中君が落ち着いて得点を決め、福岡工が思惑通りにリードする。しかし、1:51乙訓④上出君がゴール前からすぐさま得点し、同点に追いつく。その後1:27福岡工⑨勝木が得点し再びリード。乙訓も退水誘発時にタイムアウトを要求するも、福岡工が1点差を守りきった。1点差の展開が続く(乙訓4-5福岡工業)

第3ピリオド

福岡工は7:35⑨勝木君がゴール前からの得点、5:58⑩神崎君がミドルシュート、5:18⑨勝木君が右ポストでのパワープレーから相手選手をうまくかわし得点を決め、4点差に広げる。乙訓は④上出君が退水誘発し、攻撃を仕掛けるも不発。逆に3:09福岡工⑨勝木君がゴール前からバックシュートを決め更に点差を広げる。乙訓④上出君は再び退水を誘発し、③塚本君がクイックでシュートを決め、点を返す。2:27福岡工⑥重松君がゴール隅に突き刺さるミドルシュートを決め、乙訓の逆襲を許さない。乙訓は再度④上出君が退水誘発し、1:09⑦小寺君が得点するが、福岡工は②田中君が0:47、0:20と連続得点し、3ピリオド目に大量7得点をとり、リードを更に広げた。(乙訓6-12福岡工業)

第4ピリオド

最終ピリオドはお互いに得点機会を逃し、試合は均衡状態が続いた。2:37乙訓③塚本君がゴール前から鮮やかな回し込みで得点、2:05乙訓⑦小寺君がカウンターから得点、1:15④上出君がゴール前からの得点で3点差に縮めるも3ピリオド目の連続失点が響き、12-9で福岡工が勝利を収めた。

(乙訓9-12福岡工業)

初出場の乙訓高校は高校生らしいフレッシュな攻防を展開したが、2-3ピリオド目の連続失点が試合の勝敗を分けた。福岡工業高校は序盤こそリードを許したものの、連続得点を重ね、試合の主導権を乙訓に渡すことはなかった。結果論ではあるが、2ピリオド目のタイムアウトでの得点が効果的であったと言える。

記録者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

3

帽子の色 白

鳥羽

23

9	-	0
5	-	1
5	-	3
4	-	1
PS		

帽子の色 青

高松南

5

審判1： 石谷 啓輔

審判2： 西椋 尚史

戦評

創部以来インターハイ31年連続出場の鳥羽高校と、2年ぶり31回目の出場となる高松南高校の対戦。高松南が鳥羽の固いディフェンスをいかに崩すか、エース⑥渡邊君を中心とするカウンター攻撃を抑え込み、高松南ベースに持ち込めるかがゲームのカギを握ります。

第1ピリオド

鳥羽⑥渡邊君がセンターボールをとり、そのままシュートを放ち試合が開始。7:21鳥羽⑪尾池君がカウンター攻撃から先制点あげた。6:40⑨本部君が得点をとり2点差、高松南も⑤岡田君を中心に勇猛果敢に攻撃を仕掛けますが、鳥羽のプレスに得点の機会を作り出す事ができない。5:19鳥羽⑥渡邊君が自ら退水を誘発し、新ルールを活用したフリースロー解除から得点をあげる。続けて4:48⑪尾池君がカウンターから得点。点差を広げられたくない高松南はタイムアウトを要求。鳥羽の攻撃を食い止めたかと思われたが、2:59鳥羽⑫藤井君が回し込みから得点、2:32鳥羽②岡本君のカウンターからの得点、1:28⑥渡邊君の回し込みからのシュート、0:44目の覚めるようなミドルシュート、0:00ノータイムでのミドルシュートの連続得点で突き放す。高松南も⑤岡田君が退水誘発し、得点チャンスをつかむが不発。大量得点9点を奪い鳥羽リードで1ピリオドを終える。(鳥羽9-0高松南)

第2ピリオド

高松南が鳥羽の攻撃を止め、得点と奪う事ができるか。6:53鳥羽⑤藤原君にカウンターの得点を奪われた後、高松南は⑦キャプテン林君のバックシュート、⑤岡田君が退水誘発等、幾度となく得点チャンスを作るが、逆に4:12鳥羽⑫藤井君、3:10鳥羽②岡本君、2:39鳥羽④濱田君が得点を重ね、13点差と点差は広がる。2:22高松南は⑦林君のドライブからのシュートが決まり、鳥羽のゴールネットを揺らす。鳥羽高校はその後1:20⑥渡邊君がカウンターから得点を重ね、13点差の鳥羽リードで2ピリオドを終える。(鳥羽14-1高松南)。

第3ピリオド

一矢報いたい高松南であったが、鳥羽はカウンターからパスを回し6:50⑧長尾君が得点、6:18⑫藤井君がペナルティを誘発、自ら得点し、点差は15点差に広がる。高松南は5:42②大山君がゴール前から1点を返すが、4:14鳥羽⑧長尾君がカウンターからすぐさま点を返す。4:00高松南②大山君がゴール前にドライブし、相手をかわしシュートを決める。3:28高松南⑩宮浦君が連続得点し、流れをつかむかと思われたが、鳥羽は1:37⑪尾池君、1:13⑨本部君の得点で、反撃の芽を摘んでいく。(鳥羽19-4高松南)。

第4ピリオド

6:36高松南⑥1年生鎌野君がカウンターから得点を決め会場を沸かすが、反撃もここまで。5:45⑥渡邊君、5:18④濱田君、3:58⑤藤原君、1:02⑥渡邊君が連続得点し、23-5で鳥羽が勝利を収めた。

(鳥羽23-5高松南)。

高松南高校は幾度となくチャンスを作り、ゴール前にボールを運んだが、鳥羽高校の固いディフェンスの壁は厚かった。鳥羽のディフェンスに対応ができず、そこから失点につながった事が敗因であろう。鳥羽高校は攻守にわたって圧倒し、2回戦以降の活躍に期待ができる展開であった。

記録者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

4

帽子の色 白

前橋商業

8

1	-	4
2	-	3
1	-	3
4	-	5
PS		

15

帽子の色 青

四日市中央工業

天候： 晴れ

審判1： 牧田 和彦

審判2： 福元 寿夫

戦評

過去インターハイ4連覇を含む10度優勝を誇る伝統校前橋商業高校と、柏崎潮風カップ準優勝の強豪四日市中央工業高校との対戦。

第1ピリオド

四中工⑦山田船君がセンターボールをとり試合開始。7:40四中工④畑君が強烈なドライブからのシュートで先制点をあげた。前橋商も7:09④1年生エース松本君が退水攻撃時からのシュートで同点に追いつく。6:20四中工⑤谷君も負けずと退水攻撃から得点を決める。5:30四中工③萩村君の退水攻撃時からの得点、2:42⑤谷君が得点を重ね、リードを3点差に広げる。前橋商は1ピリオドで退水4つと劣勢が続くが、懸命に守り④松本君⑨齋藤君を中心に攻撃を仕掛けていく。(前橋商1-4四中工)

第2ピリオド

7:42④畑君のゴール前での得点で4点差にするも、7:20前橋商⑥大橋君のゴール前での得点で点差は再び3点に。点差を縮めたい前橋商は6:48退水誘発からタイムアウトを要求し6:30思惑通り⑨齋藤君が得点を決め、2点差に。突き放したい四中工は4:47④畑君が得点する。離されたくない前橋商も2:37②矢野君が退水攻撃時の得点で2点差とする。その後、2:21四中工⑦山田船君の鮮やかなカットインシュートが決まる。0:32前橋商⑨齋藤君の気迫のフリースローシュートが決まり再び2点差に。一進一退の攻防が続き、四中工の2点リードで2ピリオドを終える。(前橋商5-7四中工)

第3ピリオド

7:27四中工⑥小林君の隙を突くようなミドルシュートが決まる。四中工②山田凧君、前橋商⑥大橋君が両者退水となるが点は動かず。6:16④松本君がシュートを決め、前橋商が再び2点差に詰め寄る。4:27四中工④畑君が技ありシュートを決め点差を広げた。1:12四中工⑩城君がカウンターから得点を決め、点差は4点となった。(前橋商6-10四中工)

第4ピリオド

何としても逆転したい前橋商は力強いプレスティフェンスから攻撃を繰り返していく。6:54前橋商②矢野君のゴール前でのフックシュートが決まり、3点差。四中工は6:36、6:07④畑君、4:56⑩城君、4:20③萩村君が連続得点し、粘る前橋商を突き放す。3:57前橋商④松本君が1点を返すも15-8で四中工が勝利し、2回戦へと駒を進めた。(前橋商15-8四中工)

常にリードし続けた四日市中央工業高校と最後まで戦い抜いた前橋商業高校の対戦の勝負の分かれ目は4ピリオドに5点差となった瞬間であろう。持ち前の力を見せつけた四中工、最後まで諦めない前橋商の両校に称え、四中工の2回戦以降の活躍に期待したい。

記録者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

5

帽子の色 白

長浜北星

9

3	-	1
2	-	3
0	-	3
4	-	6
	PS	

13

帽子の色 青

埼玉栄

審判1： 塩崎 正一

審判2： 梶原 洋祐

戦評

インターハイ常連校の長浜北星高校と33年インターハイ連続出場、優勝4回を誇る埼玉栄高校との一戦。

第1ピリオド

埼玉栄の④中山君がセンターボールをとり試合開始。7:45長浜⑤佐藤君が先制点をあげるが、6:23埼玉栄⑤太田剣君がゴール前のアーリーオフェンスから同点に追いつく。すかさず5:57長浜⑨中川君がミドルシュートを決め、再びリードを奪う。4:40長浜⑤佐藤君が得点し、更に点差を広げていく。長浜北星はポストでのパワープレーを警戒しゾーンディフェンスがひいた。埼玉栄はゾーンを崩し、持ち前の早い攻撃を展開をすることができるか。(長浜北星3-1埼玉栄)

第2ピリオド

7:24長浜⑪上坂君がカウンターから得点を決めリードを3点とする。長浜は⑩桐畑君、⑪上坂君、⑫福居君のフレッシュな高校1年生トリオが果敢に攻撃を仕掛けていく。追いかける埼玉栄は4:15⑨松尾君が退水攻撃時から得点、2:58④中山君の得点、1:09⑨松尾君のポストプレーからの連続得点で同点とする。長浜は2ピリオド終了間際、相手のミスから残り0:01⑫福居君で再びリードを奪ったが、このまま突き放す事かできるか。埼玉栄はボールの展開スピードがあがったが、ペースをつかみきる事ができるか。後半の攻防に注目である。(長浜北星5-4埼玉栄)

第3ピリオド

埼玉栄は7:39⑧太田陸君がミドルシュートを決め、後半開始21秒で同点とし、6:36④キャプテン中山君が退水攻撃時からの得点でこの試合初リードを奪う。2点差とするべく2:47退水誘発からタイムアウトを要求。思惑通りに2:36③今君が得点を決める。長浜は埼玉栄のディフェンスを崩す事ができず、3ピリオド目は我慢の時間が続いた。最終ピリオドは先制点をとり、巻き返したい。(長浜北星5-7埼玉栄)

第4ピリオド

埼玉栄は、7:31に⑧太田陸君がミドルシュートをゴール左下隅に決め、6:51⑦針谷君の得点、5:06②田中君の得点で点差を5点差とする。長浜は4:10⑦清水君が回転を加えた技ありのループシュート、3:30⑪上坂君が相手の隙からボールを奪い得点し、3点差まで追い上げる。2:58埼玉栄⑤太田剣君の得点後、1:29長浜②行岡君のシュートで点差は再び3点差。埼玉栄は1:12、0:24④中山君の連続得点で突き放した。長浜はGKが攻撃するパワープレーで1点を返すも、埼玉栄が13-9で勝利を収めた。(長浜北星9-13埼玉栄)

4ピリオド目まで長浜北星高校と埼玉栄高校の点差は纏れたが、最終的には退水の決定率の差が、勝負の分かれ目であったと言える。退水時に確実に得点を重ねた埼玉栄が試合の流れをつかんだ。敗れた長浜も高校1年生が躍動し、次年度以降期待がもたれる戦いぶりであった。

記録者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一

令和元年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会(水球)
第87回日本高等学校選手権水泳競技大会(水球)

水球競技戦評

期日：令和元年8月17日(土)～20日(火)

会場：奥武山水泳プール

ゲームNo.

6

帽子の色 白

明治大学附属中野

18

3	-	0
6	-	2
6	-	1
3	-	4
PS		

帽子の色 青

新潟産業大学附属

7

審判1： 牧田 和彦

審判2： 石谷 啓輔

戦評

近年常に上位進出を果たし19年ぶりの優勝を目指す明治大学附属中野高校と創部4年目ながら激戦区北信越地域を勝ちぬき2年連続出場を果たした新潟産業大学附属高校との一戦。柏崎潮風カップの2回戦と同一カードとなった。新産附が明中のカウンター攻撃を防ぎ、主導権をとれるかが試合のポイントとなる。

第1ピリオド

明中④高橋君がセンターボールをとり試合開始。明中④高橋君が退水を誘発、退水攻撃時から5:10⑥越智大君が先制点をあげた。さらに3:54明中④高橋君がフリースローからの鮮やかなルーブシュートを決め、1:11②宇治家君がカウンター攻撃からの得点で3点差とする。両校ともにプレスディフェンスを行い、新産附は⑧左ききのフローター栗山君を中心に攻撃を仕掛けていく。

(明大中野3-0新潟産業)

第2ピリオド

新産附は6:51⑦水野君がカウンター攻撃から1点を返すが、6:29明中⑤富永君がすぐさま自らペナルティを誘発し、得点した。その後はお互いにミスが重なり、決定機を生み出せず膠着した展開が続く。3:11明中⑤富永君が得点、2:42明中③狭間君の得点で5点差となったところで、新産附がタイムアウトを要求。2:37新産附⑧栗山君が持ち前の力強いフローティングから得点し、新産附が流れをつかむかと思われた。しかし明中が2:22⑤富永君が回し込みから得点、1:47③狭間君、0:29⑤富永君のパワープレーで連続得点し7点リードで前半を終えた。新産附は⑧栗山君にボールをつなぎ、流れをつかみたい

(明大中野9-2新潟産業)

第3ピリオド

7:16明中⑥越智大君がペナルティ誘発後、自ら得点。6:48新産附③鈴木洸君の隙を突くミドルシュートが決まり、一点を返し、反撃を狙う。明中はプレスディフェンスから相手のパスミスを狙い、5:55③狭間君が少数カウンターから得点、3:44②宇治家君の得点、2:49⑥越智大君が退水攻撃時の得点、2:01⑦渡邊君、1:07②宇治家君の連続得点で更に点差を広げる。

(明大中野15-3新潟産業)

第4ピリオド

7:44明中⑨古谷のミドルシュートがゴール隅に決まり、6:51②宇治家君の得点で点差は広がるも、新産附⑤キャプテン竹内君、GK①今井君が声を出し、チームメイトを鼓舞する。新産附は息を吹き返したかのように、5:59⑥藤井君が退水攻撃時に得点、5:21⑦水野君がカウンターからの得点、3:52⑥藤井君のゴール前からの得点、2:10④鈴木志君のバックシュートで、得点を重ねていく。その後明中も1:39⑩宇津野君が粘って得点をあげる。最終ピリオドは4-3で新産附がとるが、序盤で離れた点差は大きく、18-7で明中が勝利を収めた。

(明大中野18-7新潟産業)

試合は1ピリオド目から明大中野高校が主導権を握る展開となった。新潟産業大学附属高校は力強い選手がいるだけに4ピリオド目のようなディフェンスやオフェンスが試合序盤からできなかった事が悔やまれる。明大中野高校は得意のカウンター攻撃や3年生の力強いパワープレーが冴え、明日以降の活躍が期待できる展開であった。

記録者

砂子阪誠・今崎哲也・加藤博一